

# 『SFAプログラム』指導者養成講座

SFAプログラムは農研機構と茨城県立医療大学が共同開発したフラワーアレンジメントによる認知機能訓練プログラムです。同プログラムでは特許技術(特許第5201552号)が使用されています。

フラワーデコレーター協会では、『SFAプログラムの教え方』を身につけていただき、皆さまのご家族やご友人、全国各地の病院や施設などにいらっしゃる、認知機能向上を必要としている方々に、実際にSFAプログラムによるフラワーアレンジメントの制作指導をおこなっていただくために、『指導者養成講座』を制作いたしました。



超高齢化社会を迎えた日本では、2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると厚生労働省は推計しています。認知症の予防、治療に関しては世界中で研究が進んでいますが、決定的な答えは見つかっていません。

農研機構と茨城県立医療大学医科学センターの研究により、「花」が人に与える効果の検証と利用法の開発を行った結果、フラワーアレンジメントを制作する作業を通して認知機能の訓練を行う手法を開発し、『SFAプログラム』と名付けました。

フラワーデコレーター協会(FDA)では社会貢献の一つとして、今後ますます増えてくると予測されている認知症に対して、農研機構監修のもと、FDAだからこそできる方法で、少しでも認知機能の向上につながる活動に取り組んでいきたいと考え、「認知機能向上のためのフラワーアレンジメント指導者養成講座」の制作にいたしました。



当講座では、農研機構が提供するSFAプログラムをより理解し、「花に携わる」ものとして、より良いプログラム提供をしていただけるように学んでいただけます。

## 【カリキュラム】

- ・認知機能とその障害について
- ・高齢者にみられる障害
- ・介護とうつ
- ・患者さんとの接し方・信頼関係の作り方
- ・SFAプログラムの仕組み
- ・SFAプログラムによる認知機能、精神機能の改善
- ・SFAプログラムに適した花材の選び方

etc

## 【教材・資材内容】

- ・指導用テキスト
- ・指導用DVD
- ・印付吸水性スポンジ
- ・手順書
- ・花材カット寸法図
- ・紙製コンテナ
- ・ラッピングペーパー
- ・理論試験問題
- ・修了証書申請用紙

etc

※教材の資材などは、仕様の変更が生じる場合がございます。



## SFAプログラムって??

農研機構と茨城県立医療大学が共同開発したフラワーアレンジメントプログラムで、SFAプログラムで使用している資材や制作方法は特許を取得されています。

- ▲■などの印が付けられた印付 吸水性スポンジを使います。
- 花材の長さがあらかじめ決められています。
- 花材を挿す位置や順番は手順書に図示されていて、この手順書に沿ってパズルを組み立てるようにフラワーアレンジメントを制作します。

脳卒中などで認知機能に障害を負った方々を対象に行った臨床試験では、SFAプログラムの実施により、記憶テストの得点が 12,7 点から 23,3点へと優位に向上しました。視覚性記憶が向上したと考えられます。

### ■農研機構（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）

農研機構は農林水産省の試験研究機関の時代を経て独立行政法人として発足し、現在の 国立開発法人となり、日本の農業と食品産業発展のため、幅広い研究開発を行っている機関になります。

### ■社会貢献活動への資材援助

講座を履修し、『脳トレフラワーアドバイザー』へのご登録後は、実際に印付吸水性スポンジを使って、お教室や施設・病院で体験をしてみてください。その際の補助としてFDAから資材提供※いたします。

※但し、数に限りがあります。報告書の提出など提供条件などはご登録後の資料にてご確認ください。(2024年3月現在)

<参加者1名あたりの提供資材> ※2024年3月現在

・印付吸水スポンジ ・紙製コンテナー ・ラッピングペーパーセット（ビニール・不織布各1枚）

#### ★体験会開催報告書の提出

体験会開催後は、FDAに簡単な報告書を提出してください。

体験日:実際に体験を行った日付

対象:生徒、施設、病院、学校など

報告内容:いつ・どこで・誰を対象として・何名の方に体験を行ったか。

実際に体験してみた感想

参加者と作品を並べた集合写真も同封してください。

◎ご提出いただいた報告書は、会報誌などに掲載する場合がございます。その際の画像使用につきましては事前に確認させていただきます。

SFA  
プログラム  
指導



(体験プログラム実施の様子 : 写真提供・重松恵 様)

花で社会貢献！

『脳トレフラワーアドバイザー（SFAプログラム指導者）』に登録いただくと、認知機能向上を心掛けたいという方などを対象に、ご自身のお教室や施設などでSFAプログラムの体験会を開いたり、デイサービスや施設などのレクリエーションの一つとして実施していただくことができます。

SFAプログラムは、認知症を心配される方はもちろん、他にも、事故・病後のリハビリに励まれている方々にもおすすめの、認知機能トレーニングできるプログラムです。

お花を挿すスポンジに4つのバリエーションがあるので、対象の方の状況に応じて難易度を変えて実施することができます。アレンジメントの完成を楽しみながら、認知機能トレーニングがおこなえるので、レクリエーションにもおすすめです。

指導者養成講座  
開講

既にお教室をお持ちの方、またはお教室開設を目指す方は、SFAプログラム指導者養成講座として、お教室のカリキュラムの一つとして取り入れていただけます。その際の指導用教材の提供もいたしております。

生徒様も、講座履修後に申請登録をしていただくことで、脳トレフラワーアドバイザーとして活動いただくことが可能です。

地域での活動をする仲間を増やし、お花での社会貢献を一緒に広げていきましょう！



ワークショップ  
花育指導  
お教室の体験用等  
資材利用

SFAプログラムの資材を使用することで、どなたでもきれいなフラワーアレンジメントを作ることができます。そのため、花育現場やワークショップ、お教室の体験レッスンなどにも使いやすい資材です。

一番花数を少なく制作するアレンジメントであれば、制作時間も短く、イベント時のワークショップにもおすすめです。

脳トレフラワーアドバイザーになることで、教材内の資材を購入することが可能ですので、様々な場面で使用できます。

ぜひ、ご利用ください。



理論編では次のようなことを学びます。

### 認知機能とその障害について

- ・ 認知機能とは
- ・ 「認知症」と「高次脳機能障害」
- ・ 認知機能障害と脳
- ・ フラワーアレンジメントの制作時に必要とされる主な認知機能
- ・ 視空間認知能力
- ・ 記憶力
- ・ 注意力
- ・ 作業記憶

### 高齢者にみられる障害

- ・ 高齢者を取り巻く環境
- ・ 高齢者を3つの視点からみる
- ・ 高齢者によくみられる精神症状と対応

### 介護と抑うつ

### 患者さんとの接し方・信頼関係の作り方

### SFAプログラムの仕組み

- ・ SFAプログラム開発の背景
- ・ SFAプログラムの3つの特徴
- ・ SFAプログラムにおける様々なデザイン
- ・ SFAプログラムによる認知機能トレーニングと様々な利用場面
- ・ 適切な実施人数
- ・ 印付きスポンジを使用することは社会貢献につながる

### SFAプログラムによる認知機能改善

- ・ 視空間認知能力が改善したケース ※別紙資料有り
- ・ 左半側空間視力が改善したケース ※別紙資料有り
- ・ 視覚性記憶力の向上を示す臨床試験結果 ※別紙資料有り
- ・ フラワーアレンジメントによりご家族の精神機能が向上 ※別紙資料有り



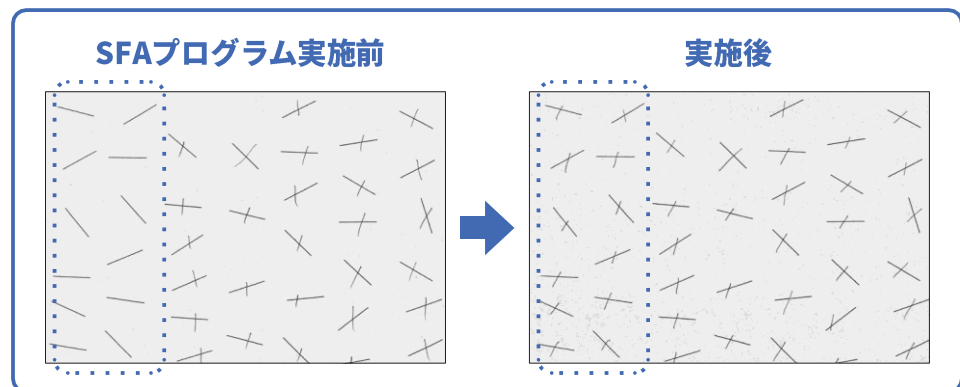
## ■ 左半側空間無視が改善したケース

作業中の事故により脳に損傷を負った40歳代男性BにSFAプログラムを実施したところ、左半側空間無視の症状が改善しました。男性Bは脳挫傷から3年が経過していましたが、SFAプログラム実施前には左半側空間無視の症状が残存していました。

左半側空間無視の検査（線分抹消）では、紙面に描かれたすべての線分にチェックを入れることが要求されます。SFAプログラム実施前の検査において男性Bは左側2列の線分を見落としてしまい、チェックの印を付けることができませんでした。SFAプログラムを数回体験したところ、同検査における左半側空間無視の症状が消失しました。実施後の検査において男性Bは左2列を含むすべての線分をチェックできるようになりました。右に偏りがちな注意が左側にも向くようになったと考えられます（Mochizuki-Kawai et al., JARQ, 2016）方向性注意の改善を示すデータです。

### 左半側空間無視の検査結果

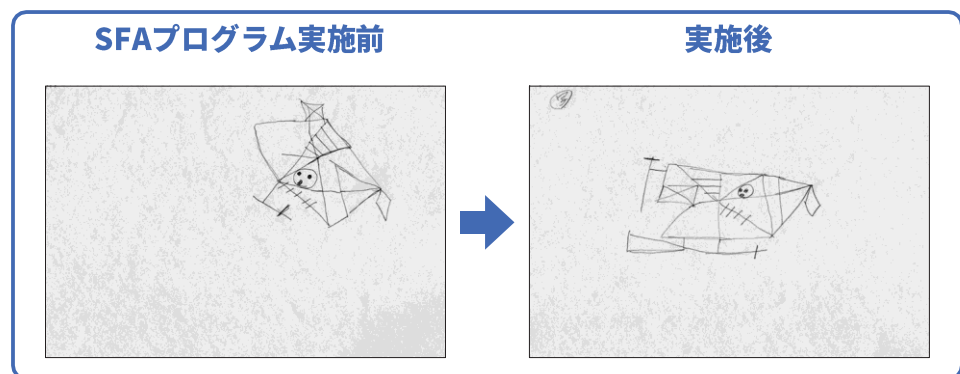
線分抹消検査では、  
全40本の線分に印  
をつける



（望月ら, 高次脳機能研究, 2013 より一部改変）

下図は上述の男性BがReyの複雑図形を模写したときの描画図です。SFAプログラム実施前には用紙の右側に図形を描いていましたが、実施後は用紙の中央に図形を描けるようになりました。模写図の正確性も向上しました。

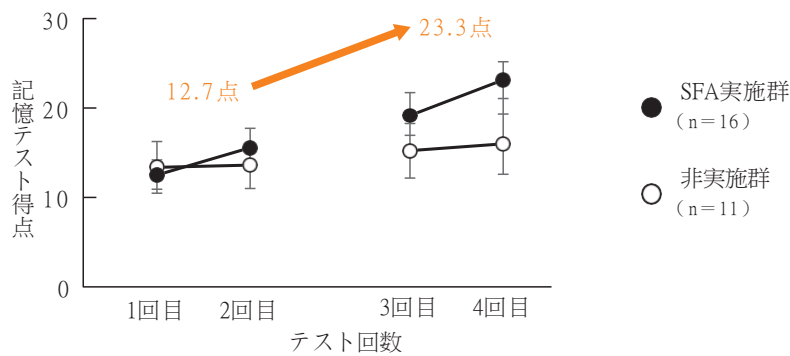
### Reyの複雑図形検査の結果



（望月ら, 高次脳機能研究, 2013 より一部改変）

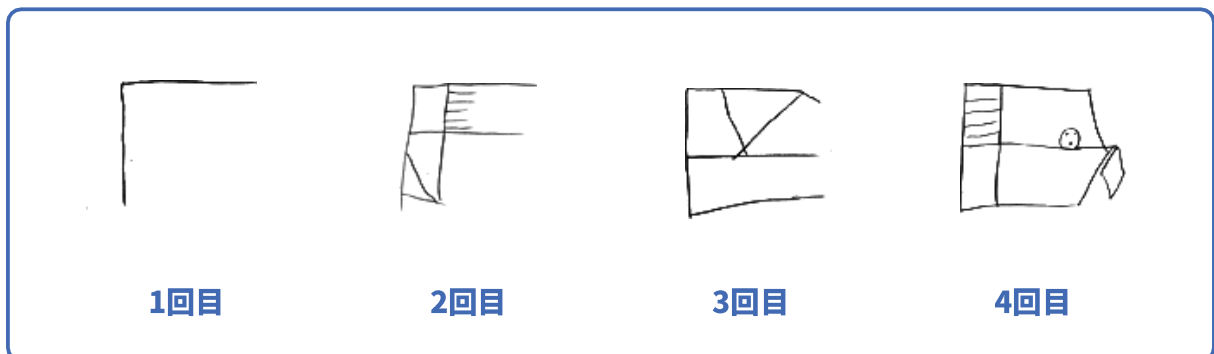
## ■ 視覚性記憶力の向上を示す臨床試験結果

交通事故や脳卒中などで認知機能が低下した高次脳機能障害者27名(平均年齢42.5歳)をSFA実施群(16名)、非実施群(11名)に分け、実施群には4週間で6回SFAプログラムを行いました。実施期間中、4回の視覚性記憶力のテストを行ったところ、SFA実施群(●)の得点は12.7点から23.3点へと有意に向上しました。4回目のテストでは、非実施群に比べて4割以上高い得点を示しました(Mochizuki-Kawai et al., *Frontiers in Psychology*, 2018)。SFAプログラムの実施によって、視覚情報を正確に覚える能力(視覚性記憶力)が向上したと考えられます。



(Mochizuki-Kawai et al., *Front Psychol*, 2018 より一部改変)

先述の記憶テストでは、被験者はReyの複雑図形を模写した後に見本図を見ないで記憶を頼りに図形を描画しました。下図はSFA実施群として参加した50歳代男性の描画図です。徐々にではありますが、記憶を頼りに描けるパーツが増えていることがわかります。



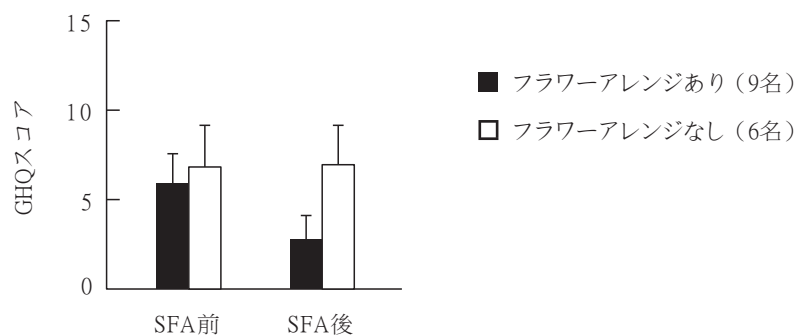
(Mochizuki-Kawai et al., *Front Psychol*, 2018 より一部改変)

フラワーアレンジメントを認知機能トレーニングに用いることで、参加者の訓練意欲が高まり、参加率が向上します (Mochizuki-Kawai et al., Neuropsychological Rehabilitation, 2010)。さらに、参加者が制作したフラワーアレンジメントによって、参加者家族の精神機能にも変化が生じたデータがありますのでご紹介します。

## ■ フラワーアレンジメントによりご家族の精神機能が向上

SFAプログラムの参加者は制作したフラワーアレンジメントを自宅に持ち帰ります。そこで、自宅に飾られたフラワーアレンジメントが介護家族の精神機能に与える影響を検証しました。高次脳機能障害者を介護するご家族を主な対象としました。ご家族の皆様には、SFAプログラムが開始される前の約1週間と、開始後約1週間の2回、質問紙調査にお答えいただきました。質問紙はThe General Health Questionnaire (GHQ)を用いました。GHQでは、睡眠はとれているか、気分が落ち込んでいるかなど、心と身体の健康に関する質問に答えました。GHQの得点が高いほど精神的な健康状態は悪いことを示します。

結果を下図に示します。SFAプログラムの参加により自宅にフラワーアレンジメントが飾られていた群(9名: ■)のみGHQの得点が有意に減少し、精神的な健康状態が向上しました (Mochizuki-Kawai, et al., Trends in Medicine, 2018)。



(Mochizuki-Kawai, et al., Trends in Medicine, 2018 より一部改変)